時間という財産。限られた財産をどうやって使って生きるのか？　という話をしようと思います。会員の皆さんも、自分はこうしていきたいとか、こういうことやってみたいとか、こういう会社を作りたいとか、こういう世の中にしたいとか、たぶん色々と叶えたい夢があると思います。

皆さんに夢ってなんですか？と聞けば話は尽きないぐらい出てくると思います。

しかし、多くの人は夢を叶える前に

「でも、諦めなければならない現実がある」と

最初に出てくるのは諦めの言葉ばかりです。

どんな諦めの理論があるかって言うと、こういうことです。

まず「お金がありません」って言いますね。お金がなかったら何もできないのかって言ったら、そうじゃないと思います。実際に自分もお金はありませんが自分のしたいことを仕事にしています。

そして「経験がない」。誰でも最初はみんなそうです。はじめから経験者は誰もいません。自分ひとりだけが最初から素人ではありません。

次に「学歴がない」。テレビでも見ますが、素晴らしい企業を経営している中卒の方もいます。学歴が本当に夢を叶えられるのかと言ったら、そういうことはないと僕は思います。

「才能がない」。何をもって才能としているのでしょうか。「話し上手」「手先が器用」など色々あります。しかし、それが認められる才能なのか、そうでないのかっていうのは人それぞれではないでしょうか。

そして、「そうは言ってもコネクションがないよ」なんて言う。これ、若い子はよく言いますね。「どうやったらネットワークを組めますか？」「どうやったらそうやっていろんな人たちと知り合えますか？」って。自分も聞かれたりします。これは飲みに行くかそういう団体に入ったほうがいいとアドバイスしています。どうやって作れるかじゃないと思っています。自分のほうからつながる努力をしない限り、絶対にコネクション、ネットワークはできません。

しかしながら、「お金がない」「経験がない」「学歴がない」「才能がない」と言いつつも、1番出てくるのはこれなんです。

「時間がない」。

「時間がない」っていうのは、本当でしょうか？　これが今日のタイトルの「時間は財産である」というお話です。どんな人間にも常に平等、常にそこにあるもの。僕も持ってないものありますし、日本人ですし、所属している社会は日本国ですし。いろいろ違いますよね、世界各国で。でも、この地球上、この瞬間にも年齢、性別、そして国籍、人種も全てひっくるめて平等に与えられているものが1つだけあります。それが「時間」なんですよね。この時間から「生きる」と「働く」を考えてみましょう。

その考え方が、２４時間分割意識生活です。

誰でもできるとは言いませんけども、本当にできませんか？　ということです。

先ほどの夢を諦めていく「諦めの理論」の全てを、これでクリア出来ないのかと考えました。

例えば、僕らには24時間あります。そして日本人ですから、学齢期を過ぎたらやらなきゃいけないことがまずあります。

本分として、8時間の労働は、これはある意味やらないといけないですね。

そして生きていくためには必要な、6時間の睡眠時間。

そして、ご飯も食べないといけませんので、ご飯食べてお風呂入ってサニタリーなんかをして、これを3時間とします。働いて、寝て、ご飯食べて、ってやればだいたい1日のことが終わりますよね。

はい、ここでみなさんに質問です。8+6+3は？

実は、もう7時間余っていますね。ここに着目をしました。食べていけなかったらば、食べるための仕事はこの8時間でやりましょうと。しかし、そうではない、もしかしたらお金にならない非営利の活動は、この7時間に費やそうと。こうやったとしても、僕は6時間ちゃんと睡眠をし、そして家族と3食の食事をし、お風呂にも入れます。

同時にそれ以上のことをしたかったら、この7時間に着目さえすれば、諦めの理論は全て解消されると僕の中では考えています。そしてこの7時間を見つけた人間が、実は2回人生を送ることができます。

簡単に言うと、ひとつは自分たちの生活を守っていくための時間にしていく。そしてもうひとつは自分の夢を叶えるため、そして人のために何か時間を使っていくような生き方に使う。この方式さえ使えば、どんな人でも自分のやりたいことを実現できると思っています。

そして、自分の中にはウィークデーとホリデーっていうのはありません。月曜から金曜まではウィークデーで休日がありますという感覚は一切ないんです。あるのはワークタイムと、それからホリタイムです。1日の中で8時間働き、そしてもう8時間は自分の中で遊んだり休んだりする時間を作ることができています。やりたいことが見つかれば、またその生活に戻せばいいだけかなと僕は思っていますね。

そして、ここにいる皆さんと私とでは目標はそれぞれ違います。１００人いれば１００通りの考え方があるとよく言われます。

しかし、目的は1つです。「幸せに生きること」。これが違う人はいませんね。不幸を目指している人間に僕は出会ったことがないからです。

では、何が私たちの幸せに繋がるのか。ここで人が感じる３つの幸せを紹介します。

ひとつめの幸せは、人は生まれてから「してもらう幸せ」を感じて生き始めます。ふたつめ、少しずつ成長し大人になってくると、自分で「できるようになった幸せ」を感じます。そして3つめ、人に「してあげる幸せ」を感じるわけですね。「してあげる幸せ」は3つの幸せの中でも最高の幸せだと言われています。

これと、今日のテーマの時間を合わせて考えて行きたいと思います。

長寿大国「日本」と呼ばれる今、もし１００歳まで生きたとしましょう。

我々の財産、お金よりも大事な時間という財産は、実は87万6000時間なんです。そして「してもらう幸せ」の期間、産まれてから成人するまでに社会や保護者に支えてもらう時間は17万5200時間です。人生の中の5分の1をその財産を使って生きていきます。そして、8時間寝たとしてです。睡眠時間も財産を使いながら行います。これが29万2000時間。

70歳から100歳まで、これも社会や周りの人たちから支えられて生きる期間だと考えると、これも人生の3分の1の29万2000時間を使います。では「してあげる幸せ」。我々が誰かを支えて生きる時間はどれくらい残されているかというと、実は11万6800時間しかありません。これ、睡眠時間を除いてですからね。これをギュッと日にちに換算すると、4867日。100年の人生の中で誰かのために使える時間を年数にすると、13年と4ヶ月しか我々には与えられていないということです。

ここで、私の残りのJCライフをこの計算であてはめて考えました。

説明

　そして、人は生まれた瞬間に人生の中で1番つらい体験をしています。我々は全員母親の子宮の中からこの世に生み出されてきます。その過程の身体的苦痛は人生の中でMAXだと言われています。

そして、その身体的苦しみから開放された瞬間、全ての五感が解放されます。これはもう未知との遭遇です。脳の中が全て不快指数でいっぱいなわけですね。そして、その不快指数を埋めるために、我々は「何者でもない自分を必要としてもらいたい」という欲求が初めて生まれます。

母親に抱かれた時、助産師さんに抱かれた時、初めてその欲求が満たされ、そしてそれが脳の快につながっていると言われています。これは一生覆すことのできない、僕らが1番必要とする欲求なんです。「誰かに必要とされたい」という欲求を満たしていかない限り、我々の幸福感は満たされません。その方法はひとつです。誰かのために自分の命を使っていくことです。

命を使う、これを「使命」と言います。この使命を僕らはフルに使い切り、そして悲しみのない、そして命というものを最後まで全うしていく、そういう世の中を次世代の子どもたちに手渡す責任があります。

だからこそ今、日本はこのことに対して、自分の命を使っていく人を1人でも増やしていかなくてはいけない。そして、JC運動を通して多くの人たちにも伝えて行かなければ行けないと感じています。